

# 平成 30 年度

## 高校生海外派遣交流事業

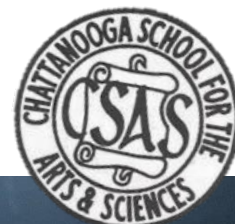
### 報告書

派遣期間 平成 31 年 1 月 4 日 (金) ~ 1 月 19 日 (土)

派遣先 アメリカ合衆国 テネシー州チャタヌーガ市  
ニューヨーク市

派遣校 CSAS 校 (Chattanooga School for the Arts and Sciences)

人数 市内高校生 8 名、引率 2 名



ジム・ボールズ校長先生、ルイーザ・メシッチ氏、ホストスチューデントと共に



## 平成 30 年度 高校生海外派遣交流事業派遣生・引率者名簿

### 【派遣生】

番号	氏名	性別	学校 学年	研修テーマ	ホームステイ先
1	きたやま けいこ 北山 景子	女	遠野緑峰高校 2年	日本とアメリカのゲーム の関係性について	Becky and Doug Potts Rya (9th), Wyndom (7th), Eryl (2nd)
2	きくち のぶひと 菊池 庸仁	男	遠野緑峰高校 2年	アメリカで人気のスポー ツ、日本のスポーツの知 名度、E スポーツについ て	Susan and John Lazenby John (11th), Kathryn (9th)
3	とよまね あや 豊間根 亜耶	女	遠野緑峰高校 1年	アメリカの学生の趣味と 将来の夢、日本への関 心	Brandy and Walter Staszewski Tyler (12th), Wally (7th)
4	きくち ゆめの 菊池 夢乃	女	遠野高校 2年	異文化を理解する中 で、自分にはないアメリ カ人の自己表現の仕方 を探る	Teresa Wesson Ivy (11th)
5	むらかみ しほ 村上 志保	女	遠野高校 2年	アメリカの学生と SNS との関わり	Daphne J.Moor Kaiya (12th), Danielle
6	きくち ももか 菊池 百花	女	遠野高校 2年	アメリカの学生の夢につ いて	Daniel and Dina Uson Isabel (12th)
7	ささき あやな 佐々木 彩奈	女	遠野高校 2年	アメリカと日本の勉強に 対する意識の違い	Ron Huston and Jenny Jordan Angelina (7th)
8	ささき きほこ 佐々木 紀保子	女	遠野高校 1年	アメリカ人と日本人が使 うジョークの違い	Mark and Anita Kapperman Cydney (11th)

※(数字 th)は学年を表す。 小学校⇒5年制、中学校⇒3年制、高校⇒4年制  
例) 1st→小学1年生、6th→中学1年生、9th→高校1年生

### 【引率】

1	ささき ちか 佐々木 知華	女	遠野高校教諭	Natalia Briggs (CSAS Teacher 2 <sup>nd</sup> grade)
2	ふくより じゅんこ 福寄 順子	女	(一財)遠野市教育文化振興財団	Louisa Mesich (Coordinator) Emily Krause (Teacher 5 <sup>th</sup> grade) Janie Fossett (Teacher HS)

## 平成30年度 高校生海外派遣交流事業日程表

日次	月日	地名	現地時間	内容
1	1/4 (金)	遠野発 新花巻駅発 東京駅着 東京駅発 JR成田空港着 成田空港発	9:00 10:19 13:24 14:03 14:57 17:30	みなさんに見送られいよいよ研修がスタート。成田空港では、航空会社のチェックイン機だけでなく、出国審査も顔認証ゲートとなり、手続きの自動化が促進されていた。アトランタ空港に向けて約12時間のフライト、いよいよTake off!!
	日付変更線	アトランタ着 チャタヌーガ着	16:13 19:30	専用バスでCSAS校に到着。ホストファミリーから大歓迎を受け、いよいよチャタヌーガでの生活が始まる。
2	1/5 (土)	チャタヌーガ	終日	それぞれホストファミリーと過ごす。
3	1/6 (日)	チャタヌーガ	終日	同上
4	1/7 (月)	チャタヌーガ	終日	登校初日は、エミリー先生のコーディネートで小学部と幼稚園部のクラスを訪問。折り紙、名前の漢字充てなどを通して交流。かわいい小学部の生徒が絵本を読んで聞かせてくれたり、ダンスを教えてくれたりした。また、ジム・ボールズ高等部校長はじめ、各部の校長先生に挨拶した。
5	1/8 (火)	チャタヌーガ	終日	2日目は、エイミー先生のコーディネートで中学部を訪問。『千と千尋の神隠し』（英語字幕）を生徒と一緒に鑑賞。選択制のバンド（管楽器）や、弦楽器のクラスを見学。弦楽器クラスからは『サクラサクラ』の演奏をプレゼントされる。8学年（中3）クラスでは、CSASの生徒とペアを組み、「Egg Drop」に挑戦。
6	1/9 (水)	チャタヌーガ	終日	アンディ・バーク市長表敬訪問の後、今年度から始まったテーマ別研修がスタート。ビジネスコースは、「スモールビジネス・ディベロップセンター」にて起業家支援体制について学び、新規事業の現場を見学。農業コースは、持続可能なコミュニティ農園「クラブツリー・ファーム」を訪問。プレゼン、農場見学の後、ハウス内でオレガノの定植作業を体験。
7	1/10 (木)	チャタヌーガ	終日	ジェニー先生のコーディネートで高等部を訪問。演劇クラスでは、英語のお題でジェスチャーゲームに挑戦。9学年（高1）の世界地理クラスでは、グループに分かれ、日本についてのスカベンジャー・ハントに取り組んだ。派遣生は、日に日にコミュニケーション能力が高まっている様子。コーラスクラスでは『This is me』の美しいハーモニーに参加。体育クラスでは、バスケットやバレーなどを一緒に行う。
8	1/11 (金)	チャタヌーガ	終日	登校最終日も高校部を訪問。デザイン&ものづくりクラス「e-lab」に参加。美術クラスでは、シリコン製の魚を使った魚拓づくりと、今日もバラエティーに富んだ授業。そしていよいよ全校集会。ステージ上で、ホストスチューデントから紹介を受け、自分たちの言葉で感謝の言葉を伝えた後、プレゼンテーションを披露。遠野の高校生活を紹介した映像では、会場から驚きと感心の声。TWICE『Likey』のダンスはみんな笑顔でフォーメーションも完璧。会場から歓声が上がった。
9	1/12 (土)	チャタヌーガ	終日	ホストファミリーと過ごす。夜は全てのホストファミリーの皆さんが集まり、ポットラックパーティーを開催してくださった。生徒同士のテーブルからは笑い声が絶えない様子。ここでも、お礼の気持ちを込めダンス披露した。
10	1/13 (日)	チャタヌーガ	終日	ホストファミリーと過ごす。

11	1/14 (月)	チャタヌーガ発 アトランタ空港発  JFK空港着 ニューヨーク	7:15 12:05× 16:100 18:27	いよいよ、チャタヌーガ出発の朝。第二の家族となったホストファミリーに感謝とお別れを告げ、アトランタ空港へ。今年度から始まったニューヨーク研修へ出発!のはずが、トランプ政権の「壁」を巡る予算案の対立で、国の機関がシャットダウンしている影響が空港にも。保安検査に長蛇の列が出来ており、予定のフライトを逃し、4時間後の便に振替。進行中の自治問題に遭遇するのも貴重な経験。翌日のトップニュースでアトランタ空港の様子が放送されていた。ニューヨークの夜景を見ながらミッドタウンにあるホテルに移動、チェックイン。
12	1/15 (火)	ニューヨーク	終日	映画『ハドソン川の奇跡』で描かれた実話、ハドソン川に旅客機が不時着したのと同じ1月15日。自由の女神、9.11メモリアルミュージアム、ウォールストリート、ハイライン、チェルシーマーケット、ブロードウェイミュージカル『アラジン』観劇。ニューヨークのダイナミックなエネルギーに圧倒された。9.11は、1時間の見学時間が足りないほど見応えある展示で、犠牲者を想い、胸が詰まる。
13	1/16 (水)	ニューヨーク	終日	この日もNY在住30年のガイド明賀さんの案内で、NYを満喫。国連本部にて英語ガイドツアー、セントラルパーク、5番街(ティファニー本店、トランプタワー、セントパトリック寺院、ロックフェラーセンター)、グランドセントラル駅、NY市立図書館。アメリカ最後の夕食は、特大BBQリブ。夕食後、タイムズスクエアで最後の時間を過ごし、名残惜しい気持ちでホテルに戻る。
14	1/17 (木)	ラガーディア空港発 デトロイト空港着 デトロイト空港発	9:00 11:22 12:20	ホテル5時半チェックアウト。朝食パックをホテルで受け取り、空港へ。デトロイト空港で乗り継ぎ、成田へ。
15	1/18 (火)	成田空港着 エアポートレストハウス着	15:50 16:30	成田空港へ到着。ホテルチェックイン後、元気がある派遣生は、成田空港内を散策。和定食の夕食で、無事の帰国を祝って乾杯。時差ボケで夜中2時に目が覚め、夜食タイムをした派遣生も。
16	1/19 (土)	エアポートレストハウス発 JR成田空港発 東京駅発 新花巻駅着 遠野着	8:20 9:15 10:17 13:41 14:30	派遣生は、この日の解散を惜しむかのように、新幹線でも座席を向かい合わせておしゃべり。ご家族や関係者の出迎えを受け、遠野に到着。お世話になった全ての皆さんに感謝の心を胸に、それぞれ家路に。どうもありがとうございました。



1/12 ホストファミリー主催のさよならパーティにてホストスチューデントと共に

## 1 テーマ設定の理由

私はゲームをすることが好きで、1日で平均4時間以上はやっていると思います。友達と話す時もほぼほぼゲームの話題です。

最近私がはまっているゲームは「スプラトゥーン2」というゲームで任天堂 Switch のゲームソフトです。このゲームは E3 という世界大会が 2018 年 6 月にあり、日本のプロゲーマー4人組が優勝したゲームです。私はその情報をインターネットで知りました。

この海外派遣をきっかけに私の1番好きなゲームで、アメリカの学生と日本での違いを知ることができたらいいなと思ったからです。

## 2 研修内容と結果

章立てをし、それらについて自分が調べたこと、考えたことをまとめる

(1) どんなゲームを主にやっているか  
チャタヌーガの学生は主に Fortnite やマイクラフトをしている人が多かったです。  
Fortnite は日本でも海外のプロゲーマーの人が有名なので、アメリカでは特に有名だと思っていました。ゲーム内のエモートが海外の映画やテレビが元ネタのものが多かったので、それを踊っている人もたくさんいました。  
マイクラフトは私がお世話になったホストスチューデントもやっていました。

(2) 1日にどれくらいプレイしているのか  
多くは1時間から2時間に満たないくらいしていると言っている人が多かったです。  
ホストファミリーにお世話になっていた時も、アメリカの人たちは休日にお出かけするとか外食することが多く、家で過ごす時間が少ないと

感じたので、1人でゲームをするという時間はあまりないのかなと思いました。

(3) 1番好きなゲームは何か  
これはみんなバラバラでした。マイクラフトと言っている人もいたり、Fortnite と言っている人もいたり、タブレット内のアプリゲームが好きだと言っている人もいました。

(4) スプラトゥーン2について  
これは存在を知っている人はかなりいたのですが、実際にプレイしているという人はいなかったです。知名度的にはかなりあったのですが、Switch よりも PS4 を持っている人が多く、その関係もあるのかなと思いました。

## 3 まとめ

チャタヌーガの生徒ではスプラトゥーンをプレイしているという人がいなかったのですが、Fortnite やマイクラフトを主にゲームをしていて、完全にやらないというわけではなかったとわかりました。テレビゲームよりも、ジェンガとか Mexican train などのテーブルゲームを多くやっていたのではないかと思います。  
Fortnite はスプラトゥーンと少し似ていますが少し違って、100人のバトルロワイヤルなのでやはり銃で撃ちあうゲームが好きなのかなと思いました。スプラトゥーンはただ敵を倒すだけではないゲームなので、日本はちょっと頭を使ったゲームが好きなのかと思いました。逆にアメリカは単純なゲームが好きなのかと考えました。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと アメリカの生活に触れてみて

遠野緑峰高等学校 2年 北山 景子

アメリカでホームステイをしてみて、まず思ったことが、ホストファミリーはみんな仲が良いことです。お父さんとお母さんがとても仲良しでした。子供同士もとても仲良く、見ていてとても微笑ましい気持ちになりました。それが関係しているのか、私が来ていたからなのかはわかりませんが親が子を叱るということがあまりなかったように見えます。仲が良いと相手に迷惑をかけたくないと思い、自然と言われたことをしっかりやるのかなと思いました。

次に、ホストファミリーも CSAS 校の生徒もほとんどの人がとても優しく接してくれました。人の優しさは日本が1番かなと思っていましたが、チャタヌーガは同じくらい優しいと思いました。私が初日にホストファミリーに迎えられた時もホストチューデントが荷物を持ってくれたり、とても親切でした。ですが、ニューヨークでは、夜歩いていたら日本人が珍しいのか脅かしてきたので、地域によるのかなと思いました。

アメリカの食事については、私のホストファミリーはあまり沢山食べない人が多くて、野菜も食べていて、お弁当にも入っていました。日本と違うところはお米が少ないところと、朝からフレンチトーストや菓子パンのような甘いものを食べる場所が大きく違うのかなと思いました。これも私が来ていたからなのかはわかりませんが、外食もかなり多いと思いました。

CSAS 校では、自己紹介や折り紙、あやとりなどを学年が低い子と一緒にやりました。折り紙を教えていて、完成させたときにとってもびっくりしていたのが印象的で、もっと難しいものも時間があったら教えてあげたいなと思いました。大きい学年の子たちとは日本の歴史についてパソコンを使って一緒に調べたり、理科の授業で卵を高いところから落とすとしても割れないように補強したり、体育でバスケットボールやバレーボール、バドミン

トンと一緒にしたり、音楽で一緒に歌ったりといろいろなことをしました。

休日は、派遣生とそのホストチューデントたちと一緒にダウントウンに出かけたり、ホストファミリーと有名な崖に行ったり、ボウリングをしたり水族館に行ったり、アメリカで有名なコメディの料理番組を見たりと毎日違うことをしました。

最初は不安がたくさんあって、ホストファミリーや周りの人たちと仲良くやっていけるかととても心配でしたが、最後は別れるのがすごく悲しいくらい仲良くなったので、英語が全然話せなくても人と人は分かり合えることができるとわかりました。

ニューヨークでは、自由の女神像や国連本部など有名なところを観光しました。アラジンのミュージカルを見たり、言葉に表せないくらい充実した2日間になりました。ニューヨークの食事は、ほとんど毎回フライドポテトが出るのが面白かったです。

本当に充実した2週間だったなと思いました。これをきっかけに英語の勉強を頑張りたいと感じるようになりました。

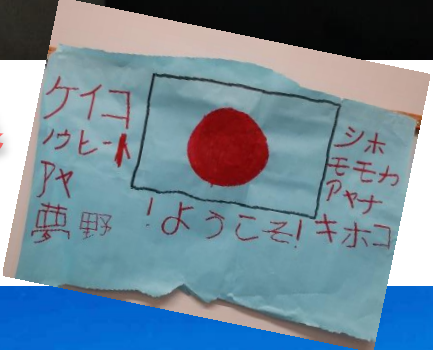
### チャタヌーガの紹介

#### TENNESSEE AQUARIUM

チャタヌーガにある水族館はとてもおすすめで、水族館なのに蝶々だけのエリアなどがあって蝶に触れることもできてとても楽しめます。他にも小さいサメやエイに実際に触れるところもあって、面白かったです。普通に魚がいるところもあり、日本のニシキゴイもいて、水族館好きの人にはとても楽しめる場所なのではないかと思いました。



Keiko with Potts Family







## 研修テーマ

# 「アメリカで人気のスポーツ、日本のスポーツの知名度、Eスポーツについてどう思っているか」

遠野緑峰高等学校 2年 菊池 庸仁

## 1 テーマ設定の理由

私はスポーツが好きなのでアメリカの人がどう思っているかが気になったからです

また、日本でのEスポーツに対する考え方や違いなどはあるのか知りたかったからです

## 2 研修内容と結果

章立てをし、それらについて自分が調べたこと、考えたことをまとめる

### (1) アメリカの人気のスポーツについて

私はアメリカで人気のスポーツはバスケットボールや野球などと思っていました。

しかし、実際聞いてみるとアメリカではアメリカンフットボールが人気だそうです。日本でもアメリカンフットボールは高校や大学のクラブ活動としてやっているところもありますが、日本で人気というわけではありません。アメリカではアメリカンフットボールでの盛り上がりほかのスポーツに比べてすごいそうです。なぜ、こんなにも人気かという、アメリカンフットボールは名前にもある通りアメリカで生まれたからです。レストランに入っても日本ではニュースやスポーツでも野球やサッカーですが、アメリカではアメフトの試合が放送されています。また、モールに連れてってもらった時にスポーツのところを見てもアメフトのヘルメットやユニフォームが他のスポーツ以上にならんでいます。アメフトがとても人気なのが分かりました。

### (2) 他の人気のスポーツについて

私はアメフト以外に人気のスポーツも気になったので聞いてみました。

それは、バスケットボール、野球です。バスケットボールの盛り上がりもすごいそうです。バスケットボールもテレビで放送していたりします。また、学校の生徒もバスケの服を着ている人やバスケットボールシューズを履いている人も何人か

見て、人気なのが分かりました。野球はシーズンじゃないのとやらないらしいです。しかし、野球はバスケットボール以上に人気だそうです。

### (3) Eスポーツについて

日本ではEスポーツはただのゲームという人もいれば、競技に含めてもいいという人がいます。私はゲームは好きですが、ただのゲームなのでスポーツではないと思っています。聞いてみたところ、アメリカでもただのゲームという人やボーリングやゴルフ、ポーカーなどと一緒にいる人もいました。また、競技に含めてもいいという人もいます。そのような考えは日本と同じでした。

### (4) 日本のスポーツを知っているかについて

日本では剣道や柔道がクラブ活動としてある学校も多いと思うし、日本人は誰でも知っているはず。そこで、私は日本のスポーツがどのくらい知られているかが気になったので聞いてみました。アメリカでは、剣道や柔道をやっている人もいます。しかし、知名度は低いそうです。CSASの生徒に聞いてみても知る人は少なかったです。日本のスポーツが他の国でももっと知られるようになればいいと思います。

## 3 まとめ

アメリカに行くというとても貴重な体験ができました。今回、調べてみてアメリカでアメフトが1番人気だということと、他の人気スポーツ、Eスポーツ、日本のスポーツの知名度を知ることができました。Eスポーツはオリンピックでどう盛り上がるか知りたいと思いました。私は、野球とバスケットボールが好きなので、いつかメジャーリーグやNBAの試合を見に行ってみたいです。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 「チャタヌーガ生活を通して」

遠野緑峰高等学校 2年 菊池 庸仁

私は海外へ行くのが初めてでした。英語も得意なほうではなかったので、聞き取れるか不安でした。いよいよ出発のときがきました。家族と離れ、空港まで来ました。飛行機を見たとき「アメリカへ行ける」と思い、不安が大きかったけど楽しさになってきました。そして、飛行機に乗り、私は飛行機で映画が見られるとは聞いていましたが、想像していたより映画の量が多かったので驚きました。

長いフライトを終え、アトランタに着きました。そこからバスで約2時間半かけてアトランタからチャタヌーガへ行きました。CSASではホストファミリーが私たちの名前を書いた紙を持って寒い中待っていてくださり歓迎してくれました。会話では私が聞き取れなかったときにスマホで日本語に訳してくれたり、ゆっくり話してくれたのでとても助かりました。

アメリカの家は玄関が日本と違って小さく感じました。多分靴を脱ぐ場所がないからだと思います。アメリカの家はどこを見てもおしゃれに見えました。色もきれいで絵本に出てくるような感じがしました。

チャタヌーガで最初にホストファミリーが水族館に連れてってくれました。水族館は同じ場所に2つあり、どちらも楽しかったです。そのあと私は、ホストファミリーのファザーと同年のジョンと山にハイキングをしに行きました。私は日本で釣りをするとき山に登ったりしますが、日本と違ってアメリカの石ころや岩は大きいです。少し歩き慣れるのに時間がかかりました。でも川の水やそこから眺める景色はきれいでした。また、川の近くでジョンとドローンで遊びました。とても楽しかったです。

初めてCSAS校に行くときがきました。最初はすごく緊張していて、生徒が話す言葉を聞き取れるか不安でした。しかし、生徒たちは優しく私

が分からなかったらゆっくり話してくれたり、ジェスチャーなどをしてくれて助かりました。生徒とは折り紙を折ったり、お互いの好きな食べ物や趣味などを話したり、日本の社会の問題をパソコンで調べたり、体育をしました。私はその中でも体育が楽しかったです。私はバスケをやりました。1人の自分と同じ歳くらいの男の子が3ポイントシュートをどの場所でも適当にうって入るところがすごいと思いました。半コートの5対5が楽しかったです。プレゼンでは、すべてうまくでき生徒たちが盛り上がってくれたのでよかったです。

今回チャタヌーガにきて、改めて優しさについて学びました。私のホストファミリーは私を自分の家族のように接し、ものを買ってくれたりしました。また、言葉も通じなくて苦労した部分もあったと思いますが、英語に訳すためにスマホのキーボードを日本語でも打てるように設定してくれたりしました。とてもうれしかったです。私もこの人たちみたいになりたいと思います。短い間でしたがこの人たちといた時間はとても楽しかったです。働いてお金を貯めたらいつかこの人たちに会いに来たいと思います。貴重な体験をありがとうございました。

### チャタヌーガの紹介

私はチャタヌーガの自然について、紹介します。私はホストファミリーと山へハイキングをしにいきました。川は川底の石が透けて見えるくらい水がきれいでした。また、大きい滝もありました。滝はあまり見るのがないので、とてもおどろきました。歩いていても鳥の鳴き声など聞けてとても気持ちよかったです。登った後に見る景色はとても最高です。



Nobuhito  
with  
Lazenby Family





## 1 テーマ設定の理由

私は、アニメや漫画などが好きなことから、将来はそれに関する仕事に就きたいと考えています。

そこで、アメリカの学生にも趣味と将来の夢に関連性があるのか、夢の実現のために何か努力していることがあるのかが気になったためこのテーマを設定しました。また、ホストマザーや、企業家の方など、大人の見聞も聞くことが出来ました。

さらに、日本や日本の文化への印象、関心についても知りたいと思い、将来の夢についてのテーマと平行して、調べようと思いました。

## 2 研修内容と結果

章立てをし、それらについて自分が調べたこと、考えたことをまとめる

### (1) 趣味と将来の夢、実現のためにしていることについて

まずは、関連性について、趣味と、将来の夢は何かという質問をして調べてきました。

サッカーが好きな男の子はプロサッカー選手に、スポーツが好きな女の子は、スポーツドクターになりたいと言っていました。中には、弁護士になりたいという人もいました。

アメリカの生徒も日本と同じように趣味や、憧れなどから、その職業を目指すようになりました。

他の生徒たちの中には、趣味はあるけれど、将来の夢はまだわからないという人もいました。

次に、夢の実現のためにしていることは何かという質問をしました。

医者になりたい生徒の多くは、「人助けやボランティア」と答える人が多かったです。また、「進学を考えている」という点では、日本にも共通しているなと思いました。

### (2) 人気の職業について

今回はまず、日本で人気の職業を調べてみまし

た。日本の学生にはエンジニア等、モノづくり関係の仕事や、看護・保育、サービス業も人気が高いことが分かりました。

対してアメリカでは、私が聞く限りでは医療に関する仕事も人気が高いようでした。生徒の意見からは、ビジネスが人気と聞きました。後から、若くして起業した方や副業として会社を持っている方もいると知り、とても驚きました。

### (3) 大人の見聞も聞いてみた

私のホストマザーは、看護師をしていて、学生の頃から医療の仕事をしたと考えていたそうです。そのために勉強をして、看護学校に入り、今では助産師のような仕事をしています。「勉強は大変だったけど、今はとても幸せ」という風に語ってくれました。

### (4) 日本の印象について

日本や日本の文化について知っていることはある？と聞くと「美しい街」「いつか行ってみたい」という他に、大抵の生徒が「わからない」と答えました。そのため、私の得意ジャンル、アニメについて教えると、自分も好きだという風に答えてくれる生徒が多かったです。中には、日本語を話せる子がいて、自分の好きなアニメや漫画について、たくさん話してくれました。

私のホストスチューデントのウォーリーは、日本の妖怪や、昔話などにすごく興味があると言っていました。日本の妖怪には「怖い」「不気味」という印象を持っていたそうなので、人間と仲が良い、優しい妖怪もいることを伝えると「意外だ」という反応を見せてくれました。

## 3 まとめ

将来の夢については日本と共通した考えも多いうことが分かりました。日本の印象は薄かったですが、良い印象を持ってくれていることもわかりました。アメリカの人たちと生で話して、意見を交換できる、いい機会でした！

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 「思い出と良い所がありすぎる街、チャタヌーガ。」

遠野緑峰高等学校 1年 豊間根 亜耶

私は、今回が初めての海外でした。不安も大きかったです。そんな私が10日間の滞在を楽しむことが出来たのは、私を迎えてくれたホストファミリーのおかげだと思っています。

チャタヌーガに到着して、日本や遠野での生活に慣れていた私は、街も車も人も見慣れないことばかりで、とても戸惑いました。最初は、何をしゃべればいいのかもわからなかったのですが、質問に答えるだけになっていた私に、ずっと笑顔で話しかけてくれて、安心できました。気づいたら不安はほとんどなくなって、家でもとてもリラックスできました。その夜は、ウォーリーとゲームをしました。ついた日は金曜日だったので、夜遅くまで遊んでしまいました。ゲームをしているときは、言葉がわからなくても、なんとなく意味が伝わっている気がして、ウォーリーとは最初に仲良くなれました。

平日には、タイラーの運転で学校に通い、授業に参加、見学をしました。中でも印象に残っているのは、音楽系の授業。特に、弦楽器や、ブラスバンドの授業です。日本では楽器は、部活に入ったり習い事をしたりすることがほとんどですが、CSAS校ではそれぞれに先生がついて教えていて、本当に驚きました。ほかに、コーラスの授業は本当にレベルが高くて、思わず聞き惚れてしまう歌声でした。体育は準備運動がハードすぎて運動音痴な私は、準備の時点でグッタリでした

(笑)。また、一人ひとりが自分で授業を組み込むスタイルは日本の学校にも取り入れてほしいです。

放課後には、タイラーと一緒に買い物に行ったり、お母さんが働く病院を見に行ったり、一緒にアニメを見ながらたくさん話したりしました。お父さんは、ハイキュー！というアニメがすごく気に入ったようで、私も好きなアニメだったので、うれしかったです。私もアメリカのアニメがすご

く面白くて笑いながら見ていました。

休日は、山に行って景色を見たり、スケートをしたりしました。最初の休日には、山で景色を見て、日曜にスケートに行きました。2度目の休日では、水族館に行きました。水族館なのにまるでジャングルみたいでなんだか変な感じでしたが、面白かったです。

毎日楽しかったから、なおさら別れの朝は辛かったです。寒かったので、みんなでくっついて、最後にたくさん話をしました。タイラーは、「あやに会って、日本に行ってみたいと思った。」という風に話してくれて、本当にうれしかった。みんなとハグをすると、離れたくないという思いが強くなって、泣きそうになりましたが、なんとか我慢して、笑顔で「また来る」と伝えられました。

今回の派遣では、日本にいただけでは絶対にはできない貴重な経験ができました。新しい友人、第二の家族、生活にも大きなギャップを感じて、考え方の幅もグンと広がりました。この経験のすべてが私の財産です。この派遣で得た力は、私のこれからの人生を大きく変えることになるでしょう。貴重な経験ができたことに本当に感謝したいです。ありがとうございました！！

### チャタヌーガの紹介

「ウォルナットストリート橋」

すごく長い橋で、犬を連れて散歩していたり子供が走っていたり。休日満喫している！って気分になれます。かなりおすすめ！

「Krispy Kreme」

作っているところが見られる、視覚的にも楽しいドーナツ屋さん。ドーナツの見た目もかわいいし、おいしい！

良い所が多すぎて伝えきれない！ので、まずは一度行ってほしい。&私的「いつか住みたい街 No.1」です。



Aya with Staszewski Family







## 1 テーマ設定の理由

私が今まで親しんできた文化とは異なるものや、価値観や言語、習慣、行動様式などを深く知りたいという好奇心と、日本人の多くは、アメリカ人はフレンドリーで自分の意志がはっきりとしているというイメージから、自分には足りない自己表現の仕方を実際に見て、聞いて自分の成長に繋がりたいと思いこのテーマを設定しました。

## 2 研修内容と結果

### (1) ディベートについて

CSAS校では、小さいクラスからたくさん本を読み、その本について意見を交換し合ったり、お店での会話で学んでいることを話したり、クラスの壁に貼ってある紙や、様々なクラスをまわり実際にお話しをする中で、自分の意見を言う習慣がついているのを感じました。どのクラスの人も最初に話しかけてきてくれて、日本のことや自分が思っていること、質問などをしてきて答えると、それに対する反応がすばやく返ってきて、小さい子から話の内容が濃く、レベルが高いなど実感しました。

### (2) 授業への積極性について

日本の授業とは大違いで、比較的時間の短い授業でした。はじめにダンスをしたり、あるテーマや問題に対してグループになってアクティブラーニングのようなものをどこのクラスもしていて生徒が非常に取り組みやすく、やる気のおきるような授業でした。また、先生が生徒に対して問いかけると一人ひとりが手を挙げ発言する様子から自分の意志をしっかりと全員が持って伝えようと努力していることに気づくことができました。

### (3) ホストファミリーの考えについて

ホストファミリーに日本についてと、日本人の自己表現についてアンケートをとりました。

#### ① 日本をどのように思いますか？

A, 遠野の文化にとっても興味を持っていて神社やお祭りについても知っています。

#### ② 日本人に対して、どのような印象がありますか？

A, 誰もが親切で丁寧です。日本人の人々にはとても感謝しています。

#### ③ 日本人のコミュニケーションについてどのように思いますか？

A, アメリカのコミュニケーションより丁寧で敬語を使うことやお辞儀をすることにとっても尊敬します。

#### ④ 日本人と初めて会った時はどのように思いましたか？

A, 日本語がうまく話せなくて、活動したり具体的なことを話し合ったりするのは大変でした。

このような結果から、周りの意見を聞いて改めて考えるきっかけとなりました。

## 3 まとめ

CSAS校に通っていたときに自分にはない自己表現の仕方を学びました。想像以上に学校全体が様々な場面で自由が多く、明るくてとても楽しい所でした。自由である分、一人ひとりにかかる責任が強いため、全てが自己責任で自立しているように感じたのと自分の意見を相手に伝え、そこで相手から言われた事に対する対応もスムーズで、話の内容もレベルが高いなど実際に話してみることができ自分にはない自己表現を持っていることにも気づくことができました。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 「チャタヌーガ生活で感じたもの」

遠野高等学校 2年 菊池 夢乃

チャタヌーガの派遣生が遠野へ来たとき、チャタヌーガの文化や景色、観光スポットなどの紹介や実際に学校の活動を共にし、生の英語に触れたりしたことで、海外に行きたいという気持ちが更に強くなりました。このことから、チャタヌーガ派遣に応募し、人生最大のチャンスを得ることができました。

1月4日の3時頃に日本を立ち、半日かけてアメリカへ行くまでに、不安や楽しみが入り混じる中でチャタヌーガに着き、みなさんが心温かく迎え入れてくれたことや、何よりホストファミリーがネームプレートを持って待っていてくれたことに緊張が少し和らいだ気がしました。

学校登校日の初日、最初は不安な面もありましたが、派遣生のみんなを見て少し安心しました。その日は小学生と幼稚園のクラスを訪れ、折り紙やあや取り、名前を漢字で書くなどの活動を通じた交流をし、想像以上にコミュニケーションをとることができ、アメリカの子どもたちは明るく、楽しく授業をしていたことが印象的でした。中学生との交流では、日本のアニメ映画を見て日本の文化について共有し、会話をすることでコミュニケーションの難しさがみえてきました。高校生との活動ではお互いに質問をし合ったり、日本について教えたり、実際に音楽と体育を受講する中で授業に参加し、直接触れ合うことができる機会があったことで、一人ひとりがカリキュラムを選択できるということや、アメリカの学校生活を肌で感じることができました。少ない時間の中で一緒に活動をしたことで、授業の仕組みや教育の仕方が日本と全く異なることがわかりました。

また、家での生活は日本と大違いで慣れない部分もありました。比較的起床の時間が遅く、休日には9時半に起床でした。学校が9時から始まるということから、起床も遅いことがわかりました。そして、多くの家庭では日曜日に教会へ行

き、他の信者の人たちと共に神を礼拝していました。これも、文化の違いを生活のなかで学びました。なんとといっても、食事には毎日驚かされ、朝には、ブルーベリーパンケーキやスクランブルエッグ、ベーコンをカリカリに焼いたもの、シリアル。お昼には、サンドウィッチやハンバーガー、フライドポテト。夕食には、ステーキやスープ、肉類など美味しいものばかりでしたが、野菜をもっと食べたかったという気持ちもありました。他のホストファミリーでは、朝食からアメリカンドックやオートミールなど、家庭で様々な違いがあることもわかりました。

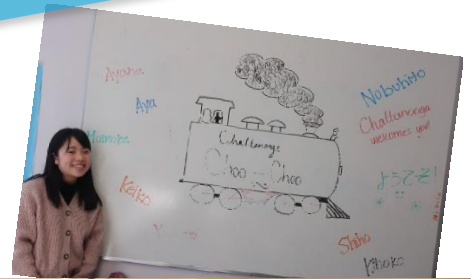
2週間という期間はとても短く感じ、異文化に触れる中で様々な見方、考え方から感じるものや、遠野を離れて改めて遠野について深く考え、現地の方々から刺激を受けることもたくさんありましたが、自分なりに遠野についても伝えることができました。何気なく生活する中でも、相手を心から歓迎しようと思う心持ちは実際におもてなしを受けた側にしか分からない感情を味わうことができましたし、チャタヌーガの生活が私に与えた影響はとても大きく感じました。この2週間とても充実したもので、この体験を将来に繋げたいと強く思いました。

### チャタヌーガの紹介

ウォールナットストリートブリッジが一番印象的でした。この橋は歩行者専用の橋でたくさんの人が犬の散歩やランニングなどをしていました。とても広いテネシー川や周辺の景色を見下ろすことができる絶景の場所で、橋の床には保存のために寄付した人の名前が刻まれていました。橋を渡りきるとテネシー水族館や美術館、アイスクリームショップがありました。チャタヌーガの風を受けながら渡ることができとても幸せな気分でした。



Yumeno with Wesson Family





よっす  
に  
Chatt.



## 1 テーマ設定の理由

私がアメリカの文化に興味を持つ一つのきっかけとして SNS を利用する中で、アメリカの学校や生活の様子を見ることが出来たことが大きかったと思います。

今日本ではスマホ依存症という言葉が生まれるほど学生へのスマホ普及率が高くなっています。私もスマホを利用していると気づかぬうちに一時間、二時間と時間が過ぎているときがあります。そこで私はアメリカの学生は日本の学生と比べて SNS が普段の生活とどのように関わっているのかを調べたいと思い、このテーマを設定しました。

## 2 研修内容と結果

章立てをし、それらについて自分が調べたこと、考えたことをまとめる

### (1) SNS の利用時間について

まず日本の学生の平均利用時間は三時間ととても多いことがわかります。女子高校生は六時間平均でスマホを使っています。

アメリカの学生は平均で一時間半と日本に比べると、少ないことがわかります。今回の派遣で実際にアメリカの学生と生活してみて利用時間が少ないことについてわかったことがあります。それは日本人に比べて家で家事のお手伝いを積極的に行ってたことや、ホームワークを真面目に取り組んでいることだと思いました。私が思うには日本は基本的に親が家事をしてくれることが多く、なかなか自分から進んで家事をするということがない様に思います。そのような面からアメリカの学生は SNS を利用する時間を有効的に活用できていると感じました。

### (2) 利用しているアプリについて

アメリカの学生が利用しているアプリはインスタグラムとスナップチャットが人気でした。

日本の学生はツイッター、インスタグラム、ラインを特に利用しています。インスタグラムは日本でもアメリカでも人気だということがわかりました。またスナップチャットの人気はアメリカでは高いことがわかりました。日本では似たようなアプリだと SNOW の人気が高く、このことから使っているアプリは違っても似ている系統のアプリを使っていることを知ることが出来ました。

### (3) 利用目的について

日本人はよく何かを検索したり、ツイッターなどで誰かの投稿を見たりすることを目的に SNS を利用しています。それはアメリカの学生も同じでした。人気のクリエイターさんを聞いたのですがたくさんいて選べないそうです。

## 3 まとめ

今回の派遣で実際にアメリカの学生と触れ合い生活しながらアメリカの学生と SNS の関係を見てきました。日本と比較してみた時に、アメリカの学生は日本の学生より家族と家で過ごす時間を大切にしているように感じました。SNS を利用する時間が日本より少なく時間を効果的に使っているという印象を受けました。私もよくスマホを使いすぎてしまうのでとても参考になりました。今年私は受験生になるので今回アメリカの学生から学んだことを参考に時間の使い方や、自分の行動に責任を持てるよう努力して、自分を変えられるように頑張ります。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 「日本とアメリカの文化の相違点」

遠野高等学校 2年 村上 志保

人生初の海外がチャタヌーガで私は幸せ者だと思っています。私は海外文化に触れる機会が今まであまりありませんでしたが、去年の夏チャタヌーガの学生と実際に交流をして海外文化に触れてみたことで海外に行きたいという思いがより一層つよくなりました。

今回の派遣で訪れたアメリカ、テネシー州のチャタヌーガは、冬でもとても暖かく過ごしやすい所でした。そこで一週間ほど生活してみて日本との相違点が多くあることに気が付きました。

アメリカの学生と家や学校で過ごした中で日本との一番の相違点だと思ったのが、子供たちの自立心と責任感の強さでした。アメリカの学生は十六歳になったら車の免許を取得し、自分で運転をして学校に行きます。それを見て私と同年代の子がその様に学校に通っているという事実にとっても驚きました。このことからアメリカの学生は日本の学生より自由なところも多い反面、自分の行動に強く責任を持ち生活していることがわかり、私の参考にしなければいけないところだと思いました。また、アメリカの学生は家の家事を積極的に手伝っていました。私のホストスチューデントのカイヤは家事のほとんどをこなしていて料理も手伝っていたので本当にすごいと思いました。家庭学習などがあるにも関わらず家族のお手伝いを積極的に行っているところに感動し、私も見習いたいと思っています。

もう一つの大きな相違点は学校の仕組みです。学校の造りや小中高一貫校というところも、もちろん日本と違いますが、私が注目したのは学校の授業内容です。CSAS では外国語の学習を盛んに行っており、カイヤは四か国語勉強しているなど、グローバルに活躍出来る人材の育成に最適な学校だと思います。また中学生の時に弦楽器、管楽器、合唱、美術を一通り学んだあと、高校で自分が一番やりたいものを専攻するという仕組みが日

本とは大違いだと思いました。私も美術を選択してみんなと授業を受けたい！と思いました。

もう一つ私が感じた違いは宗教の違いです。私がチャタヌーガに着いて二日目に家族と教会に行く機会がありました。教会には想像していたよりも多くの方がいて、みなさんが明るくそして優しく私を迎え入れてくださいました。教会ではゴスペルを聴いたりみんなであいさつをしてお話をする時間もありました。日本ではあまり体験できない文化なので貴重な経験をしたと思っています。

私は今回の派遣を通してアメリカの方々から多くのことを学び、自分を見つめなおして将来について深く考えることができました。アメリカの学校生活もそうしたが、私生活やアメリカの企業、それにニューヨークの大都市研修などを肌で感じ目で見て、五感のすべてを使って体験してきました。この経験は一生の宝物です。

私は今年受験生になります。私はこれから自分の将来についてもっとよく考え、アメリカの学生のように自分の行動に責任を持って生活できるように努力を惜しみません。帰りの飛行機に乗った時にそう自分に誓いました。

今回の派遣に関わって下さった皆様と、家族に感謝したいと思います。

### チャタヌーガの紹介

#### テネシーアクアリウム

チャタヌーガに着いて二日目の日曜日にカイヤとダニエルとテネシーアクアリウムに行きました。淡水の生物と海水の生物で建物が別があり、とにかく大きすぎて驚いてばかりだった。また素手でサメやエイを触ることが出来、私も実際に触ったりと日本では絶対できないであろうことを体験できるのでおすすめです!



Shiho with Moor Family







## 1 テーマ設定の理由

高校2年生になり、今までよりも自分の将来や目指す職業について考える機会が増えた。保育園児や小学生の頃、「大きくなったらなにになりたい？」という質問に即答できていたのに、今はそれができない。

現実性、職業についての知識が増える度に、どんどん自分の将来が分からなくなってくる。そこで、アメリカの学生がどのような夢を持っているのか、どのような考えを持っているのか知りたかった。

## 2 研修内容と結果

### (1) 小学部の学生(低学年)の夢について

「将来に何か夢を持っているか、何になりたいか」という質問への答えとして一番多かったのは、「持っていない」「分からない」だった。答えとして挙げてきたものは、医者、看護師、天気予報士、シンガーなどで、日本の小学生に多いような、スポーツ選手や保育士、パティシエという夢は、聞こえてこなかった。

小学部でのこの結果を受けて、将来の夢に共通性が見られないことに気が付いた。友人同士でも将来になりたいものについて日本のように聞きあうことも少ないのかもしれないと考えた。

### (2) 中学部の学生の将来の夢について

中学部の学生については、十分なデータが得られなかった。小学部と同様の質問をして、答えが返ってきても「分からない」というものだった。将来どのようにになりたい、ということについて考えることはあっても、その結果を職業に結び付けることが少ないのかもしれないと考えた。

### (3) 高校部の学生の将来の夢について

高校部の学生にも小中と同様の質問をした。答えとして最も多かったものは同様に「分からない」だった。1人ずつだがコンピュータープログラミングの技術者、獣医という答えもあった。

比較できるほどたくさん職業についてのデータはないが、日本のように職業がどうだから、この学校に進学するというように、将来を職業で考えないのかもしれないと考えた。

## 3 まとめ

今回の調査で、「わからない」「まだ持っていない」というこたえがほとんどだったことに驚いた。アメリカの学生は、自分の考えをしっかりと持っているから、将来のことについても同様にはっきりとした考えを持っているのだろうと考えていたからだ。

このような結果を受けて、アメリカでは将来=職業というように周りから聞かれることも、自分で考えることも少ないのではと考えた。日本では、小さいころから将来の夢=就きたい職業を前提に聞かれることが多いように感じる。したがって子供は将来を職業から考えるようになる。だから、なりたい職業が分からないと、どこに進学すればいいのか、何を目標せばいいのか余計にわからなくなるのではないだろうか。アメリカではこのようなことが起こっておらず、だから学生が職業に囚われずに将来を考えているとしたら、より柔軟に将来に考えを広げるうえでは、そのほうがいいのかと考えた。

今回は、現場で調べてみないとわからない意外な結果を得ることができてよかった。私も、将来=職業としないで将来を考えたいと思った。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 「9日と3日の2つのアメリカ」

遠野学校 2年 菊池 百花

今回の派遣で私たちは、チャタヌーガとニューヨークのふたつのアメリカを体験することができた。町も人も暖かいチャタヌーガ、眠らないおしゃれな街ニューヨーク。どちらの都市でも日本にいれば絶対に経験することのない濃密な日々を過ごすことができた。

アメリカ初日に、チャタヌーガで温かく迎えてくれたホストファミリー。緊張しっぱなしだったのも最初の二日間だけで、あとはとにかく楽しかった。チャタヌーガにいる間、ロックシティーやショッピングモール、スーパー、クリエイティブディスカバリーミュージアム、ウォルナットストリート橋などとにかくいろいろなところに連れて行ってもらった。外食にも連れて行ってくれて、アメリカの料理をたくさん体験させてくれた。アメリカのレストランはどれも量が多かった。余りは持ち帰るのが当たり前で、躊躇なく料理を残すということには最後まで慣れることができなかった(笑)。家ではみんなで映画を見たり、トランプやジェンガなどをして遊んだりした。たくさん、でもゆっくりと多くのことを伝えようと話してくれた。ホストファミリーと過ごす中で一番強く感じたのは、私をゲストではなく、家族として受け入れてくれているということだった。本当のもう一つの家族をつくることができた。いい意味で距離が近い。これは、日本ではあまりない距離感だった。当たり前のように交わされる温かいハグ。寒い朝のホストファミリーと別れるときのハグは格段に温かく離れがたいものだった。

五日間通ったCSASでは、想像していたよりもはるかに多くの学生と交流することができた。どの学生も私たちに興味を持ってくれて、積極的に話しかけてくれた。幼稚園、小学部の児童はとにかく可愛い。質問を聞きながらもメロメロ。中学部の学生は日本の学生より大人びていて、とても気を使いながら話してくれた。高校部の学生は同じ

高校生徒は思えないほどに、見た目も行動も大人だった。また、学校中に張られていたウェルカムポスター！驚いたけどとてもうれしかった。アメリカの学生に強く感じたのは強い積極性だ。交流している中でも感じたが、ホストスチューデントが放課後に先生の所に行き、質問をしていた時にも感じた。この積極性を見習って、今後の生活で手本にしたいと思う。

テーマ別研修で訪れたハミルトンカンントリービジネスデベロップングセンター。情熱をもった起業家の方々のお話を聞くことができた。アメリカでは起業がもはや文化であるということには驚いた。幼いころから培われた自主性の表れだと思った。

ラスト三日間の大都市ニューヨーク研修！チャタヌーガとは全く違う、賑やかでちょっとアブナイ眠らない街だった。建物から何から全てが桁違いの大きさ、鮮やかさ。タイムズスクエアは24時間昼間だった(笑)。見るものすべてが物珍しくて、常にはしゃいでいた。遊ぶには最高、でも住むなら確実にチャタヌーガです(笑)。

唯一の悔いは自分の英語力の低さ。伝えられない悔しさともどかしさをとても強く感じた。英語をしっかり勉強したら、またアメリカに行ってみたいと思う。

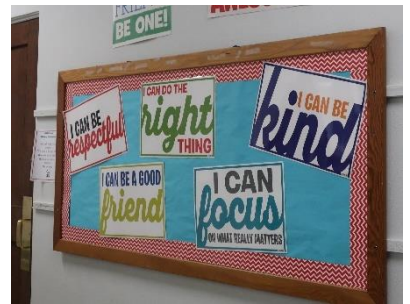
### チャタヌーガの紹介

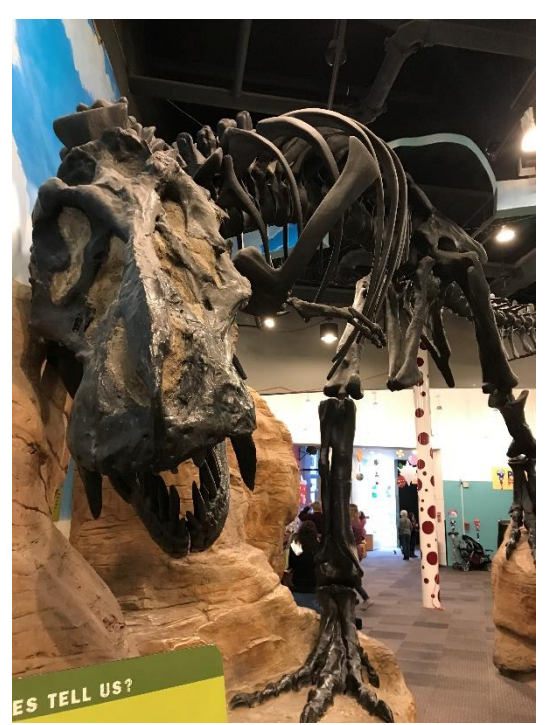
☆ウォルナットストリート橋…の近くにあるカフェ  
「Rembrandt's coffee house」

アンティーク調のオシャレなカフェで、オレンジジンジャーミントティーとライムのタルトがおすすめです。橋を歩いて冷えた体を、ぜひ帰りにこのカフェでゆっくり温めてみてはいかがでしょうか…



Momoka with Uson Family





## 1 テーマ設定の理由

このテーマを設定した理由は、今年は受験があるので勉強を何のためにしているのかと考えたとき、私も含め私の周りには勉強をテストのためにやると考えている人が多くいると思いました。また全体の傾向としてテストのために勉強しているわけではないと思っている人でも、学校で課題が出るので普段から家で自主的にやっている人は少なく、やはり自主的にやる時はテストが近い時が多いと思いました。これらのことから、日本とアメリカの勉強に対する意識の違いは何かというテーマに決めました。

## 2 研修内容と結果

章立てをし、それらについて自分が調べたこと、考えたことをまとめる

### (1) 何のために勉強をしているかについて

学校で仲良くなった人やホストシスターに聞いたところ、一番多かった答えは自分の将来に役立たいという答えが一番多かったです。その他にも、今勉強できる環境を与えられているからや、今頑張る将来恩恵を受けるため、また自分以外に親にも恩返しをしたいと言っていた人もいました。ここで私がテストの前にはいつもより長い時間勉強しますか？と聞いたところ、特別時間を長くすることは無いと言っていました。

回答してくれた皆に共通することは、目の前のことを見ているのでは無く、自分の人生を長い目で見ているということが共通していると思いました。

### (2) 家での勉強方法について

家での勉強方法はなんですかと聞いたところ、中高生はノートパソコンで課題をやっていると言っていました。アメリカの中学生や高校生は

自分のパソコンを持っているので学校で課題がパソコンに配信されるそうです。小学生の課題はパソコンではなく、日本のように紙で課題が配られると言っていました。家で課題の様子を見ていると課題が終わった後保護者のサインをもらっていました。

また、私が日本ではない勉強だと思ったのはアメリカでは小さい頃から自分の意見を言えるように訓練していますが、宿題でも討論をしていたことです。私が聞いたのは、一つの本についてグループの人たちとネット上で意見を言い合っていたと聞きました。このような勉強は日本でも取り入れると積極性が出るのではないかと思います。

### (3) 家での勉強時間について

家での勉強時間は1時間から2時間と答えた人が多かったです。私のホストファミリーの子供は1時間くらいで課題を終わらせていました。日本と比べてみて、日本では受験のために一日に4、5時間勉強する人がいますが、アメリカでは1、2時間と日本に比べると個人差はありますが短い方ではないかと思いました。

## 3 まとめ

今回取材をしてみて、テーマである勉強の意識の違いについて知ることができました。アメリカでは長い目で将来を見ている人が多く、それが意識の違いとして出ていると思いました。日本では将来のことより目の前のことを見ている人が多い傾向にあり、どちらかという明日生きることを考えていると思いました。

私は今年受験を控えています、今回調査したコツコツやるという考えは大切なことなので、それを実践して受験を勝ち抜きたいと思いました。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 「アメリカで学んだこと」

遠野高等学校 2年 佐々木 彩奈

この海外派遣で一番大切だと思ったこと、それは『自分を発信できる力を持つことは武器になる』ということでした。今回初めて海外に行き、日本とは全く違う生活を体験することが出来ました。その中でたくさんの人達と触れ合い学ぶことがたくさんあり、自分の身に蓄えられたと思います。

まず、初めに海外に行くことと決まってから行く日まで私にはまったく実感がありませんでした。私の中で海外は遠い存在で、行きたいと思っても行けない場所、夢の国のような場所だったからです。実際にチャタヌーガに着いた時には、いよいよ始まるといった感じで、ワクワクがとまりませんでした。

チャタヌーガに行って一番話したのはホストファミリーですが、そのお話をする中で私が感動した言葉がありました。それは「間違っても大丈夫。英語が話せないのが問題じゃない。話をしない、しようとしなくて問題なの。もっと自分のしたいこと、話したいことをするべきよ。」という言葉です。この言葉は私が悩んでいるときにホストマザーが私に言ってくれた一言です。私はもともと自分の意見をあまり言うほうではないため、チャタヌーガに着いたとき悩みました。なぜかという、日本ですらあまり話せないのに、海外に来たら英語が話せないのがプラスされてもっと話せなくなってしまうからです。そこでホストマザーにこの言葉をもらえて本当に良かったです。この言葉があったからアメリカに行った16日間が楽しいものになりました。

生活の方はというと、最高に楽しい！この言葉がぴったりの毎日でした。最初に学校に行くときは同年代くらいの人に会うため緊張していましたが、学校に行って知華先生を見たときとても安心しました。この安心感があるうちは海外になじめないので、いつか英語を上達させて平常心で歩け

るようになりたいと思いました。初日は小さい子供たち、幼稚園から小学校までの子たちとお話をしたりしました。本当にみんな可愛くて漫画に出てくる天使のようで癒されていました。

2日目からは中高生でしたが、思っていたよりも会話ができました。とてもオープンに話しかけてくれて話しやすかったです。話していく中で自分の話をオープンに話す人の周りには人が寄ってきて輪ができていたので、私もこのような人になりたいと強く思いました。たくさん会話をしてたくさん遊んだ学校生活だったので本当に楽しかったです。

休日はホストファミリーと過ごして、私の行きたい所おすすめのところにたくさん連れてってもらいました。山に登った時には吊り橋をダッシュして渡るなど、初めての経験をたくさん出来ました。モールでは、服と一緒に選んでくれていい買い物出来ました。

お別れの朝はとてもつらく別れたくないという気持ちから泣いてしまいましたが、絶対また会うという約束をしたので、将来また会いに行きます。その日を楽しみに今は頑張ります。

### チャタヌーガの紹介

#### ロック・シティ・ガーデン

7つの州が見えることで有名なロック・シティ・ガーデンですがそのほかにも、洞窟の中にある童話をモチーフにしたオブジェも、あまり知られていない魅力です。また行く時期は、山の上で寒いので冬ではなく夏の温かい時期がいいと思います。

私が行ったときには、あいにくの雨で7つ州が見えませんでした。晴れているときは肉眼でも見えると聞いていました。ぜひ行ってみてください。



Ayana with  
Huston & Jordan  
Family







## 1 テーマ設定の理由

私がこのテーマを現地で調べようと思った理由は、アメリカの方々と話す際にもっと楽しく話せるようになりたいと思ったからです。町で会った外国人の旅行者や ALT の先生にも積極的に話しかけますが、日本人同士で話すときは、ジョークなどを言って話を盛り上げることが出来るのに、単純な日常会話しかできなく、会話があまり飛躍せず、終わってしまいます。なので外国の方々と話す際も楽しく話せるようになれたらいいなと思いこのテーマを設定しました。

映画やテレビ番組をみてもジョークをよく言っていますが、人をバカにしているジョークや皮肉を込めたジョークを言っているイメージで、なぜそれで笑っているのかよく分かりません。なので、この機会に現地の人に直接聞いてみようと思いました。

## 2 研修内容と結果

### (1) 日本人が使うジョークと似ているジョーク

私から、日本人同士での会話の中で、使われるジョークを言い、似ているようなジョークはあるか調べました。

ひとつは、親しい人にだけ使える皮肉を込めたジョークです。例えば、「この子の家に泊まるなんてお気の毒だね。」のような、あまり仲良くない人に言ったら、失礼なジョークは日本人でも使います。

もうひとつは、言葉のからくりを使った言葉遊びのようなジョークです。例えば、「カンガルーって、この家よりも高く飛べるのかな」「飛べるよ。家は飛べないもん。」のようなジョークを使うらしいです。

### (2) 世代によって使われるジョークの違いはあるのか

日本では、おやじギャグなど世代によって、使うジョークが違いますが、アメリカにはあるかを、おやじギャグの例を言ってそれがなぜギャグになるかも説明したうえで聞いてみました。すると、世代によってネタにする人物や言葉が古いことはありますが、ジョークそのものが根本的に古いなどということはないらしいです。

### (2) 絶対にすべらないジョーク

特に理解できなかったときや気づかなかったとき以外は誰かがジョークを言った際に笑わないという事はないらしいです。

### (3) 使う際に使い方を気をつけるべき

#### ジョーク

やはり、アメリカの人全員にアメリカンジョークが通じるわけではないので、気を付けるべきです。誰にでも受けがいいジョークは、チャーミングなジョークです。

## 3 まとめ

思いのほか、日本人と同じようなジョークがあって、驚きました。おやじギャグのような日本語の発音が分からないものはお互いに共感できませんが、言葉のからくりのようなジョークは意味が分かれば国境を越えて面白いとおもいます。なので、私も私のホストシスターに彼女の友達が彼女の友達がかけたジョークに合わせて話すことができました。とてもうれしかったです。これからももっと面白い会話ができるように頑張ります。

## 研修全体を通して感じたことや学んだこと 実際に感じたアメリカと日本の違い

遠野高校 1年 佐々木 紀保子

今回の派遣で初めて海外の家族の一員になって実際にアメリカの方々の日常生活を体験することができました。私は前々から海外の方々の生活に憧れを持っていましたが自分ではなかなか経験できないことだったので今回の派遣は行く前からとても楽しみでした。正直、行く前からアメリカと日本の違いについてなんとなくわかっていたつもりでしたが、実際に行ってみて過ごしているとたくさん驚いたことがありました。

1つ目はやはり食べ物の違いです。私は普段からハンバーガーやフライドポテト、ピザなどジャンクフードも食べることはあったのでアメリカに行ってもとくに困ることはないと思っていましたが、実際に行ってみるとそうではありませんでした。もちろんホストマザーが作ってくれる食事やレストランの食事も美味しかったのですが、やはり日本とは違い、出汁のうまみなどを感じられず、日本にもハンバーガーやピザといった、アメリカのファーストフード店がありますが、その国々によって味を現地の人たちに合うように変えていることが改めて感じられました。日本人に合った食事を毎日食べている私には特別美味しいと感じるものは多くはありませんでした。基本的に現地の味は濃いものが多かったです。

2つ目は現地の学生の生活です。私たちは1週間をかけて CSLA 校に通い1年生から12年生の授業に参加してきました。幼稚園と小学校では授業の内容が日本とは違いました。幼稚園から、自分の意見を言えるようにするために、お店屋さんごっこで出すお店を何にするかなどといった課題で話し合いをするらしいです。日本では、全て先生が決めて、生徒は指示されたようにするだけなので、幼少期からそういう指導が受けられるのは面白いと思いました。小学校でも授業で今はやりのダンスをしたりなどとても楽しい授業でした。ど

のクラスも各クラスの先生によって飾り付けがされていて、とてもすてきでした。中学校、高校では日本人の同世代に比べると見た目も考えていることもすることも大人びていて、私たちからすると、見た目がその年齢よりも上に見えました。現地の学校ではパーティーがあるらしいです。今回の派遣時期の1週間後にもパーティーがあるらしくパーティーの準備の手伝いに行きました。日本では何かの行事は女の子だけが張り切って頑張っているのに、アメリカでは男の子も一緒に準備をしていました。アメリカでは学生だけではなく、家庭でも旦那さんが奥さんの代わりに食事を作ったりと家事をしていました。そういう面も素敵だなと思いました。また、私のホストファミリーが行っている教会では1週間に1回、6400人分の栄養食品を一人分ずつ袋に詰めて、貧しい子供たちに配るというボランティアもしていました。そこでは10代の子も多く自ら率先して参加していました。

今回の派遣で現地の同世代の子にたくさん見習いたいことを見してきました。これからの生活でそれらの事を生かしていき、周りの子にも影響を与えられるようになりたいとおもいます。

### チャタヌーガの紹介

チャタヌーガは大きすぎずもなく、小さすぎずもない、親切な人がたくさんいてとても住みやすそうなまちです。おしゃれなお店も多いですが、しっかり自然を感じられるところもあります。とくにおすすめる場所はテネシー水族館です。外見も内装も珍しいデザインでとてもすてきでした。実際に手で触れることができるブースもあって、とても楽しいところです。チャタヌーガの名物のキャットフィッシュも魚特有の臭みがなくとてもおいしかったです。



Kihoko with  
Kapperman Family





# Life's better in Chattanooga

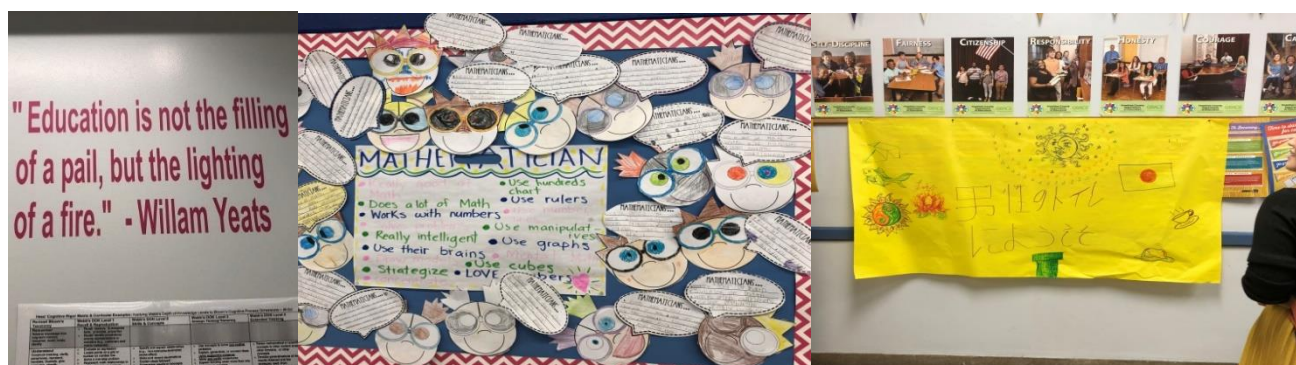
遠野高等学校 教諭 佐々木 知華

およそ30年に渡って続いているこの姉妹都市交流事業。今回はチャタヌーガでの10日間に、ニューヨークでの2日間の研修が加わり、移動期間を含めて全16日間の日程となりました。出発当時の派遣生の様子からは、夏に来てくれた7人のCSAS校の生徒との再会や、ホストファミリーとの対面、学校でのプレゼン等を考え、待ち遠しい気持ちと、緊張との両方が感じられました。この時はまだ、この派遣生がこれほど大きく成長するとは想像もしていませんでした。

CSAS校初日の朝、ホストであるナタリア先生が校内を案内してくれるというので、私は2時間ほど早く学校に向かいました。個性溢れる各先生方の部屋(特に小学部)は、生徒へのメッセージや授業の目的、日々の成果で溢れ、登校するのが楽しみになるように工夫されていました。慣れない日本語で一生懸命書いてくれた歓迎のポスターがたくさん目に入りました。派遣生はというと、緊張と戸惑いの表情が見うけられたのは初めの数十分間だったように思います。訪問する教室での自己紹介も、CSAS校の生徒達へのアプローチの仕方も、初めはぎこちなかったのですが、日を増す毎に自信に満ちてきました。改めて若者の適応力の早さに驚かされました。目から耳から肌からCSAS校のパワーを感じて、伝える努力をすることの必要性に迫られ、様々な視点から自分達との相違点に気づく派遣生達。この体験こそ、異文化理解と、物事の本質を見極めていく力に繋がっていくのであると実感しました。全校生徒千人以上を前に行った、彼ら自身で作り上げたプレゼンテーションは大成功でした。英語でのナレーションやパフォーマンスも堂々としていて、日本の高校生活(部活動、掃除風景やお弁当)の動画が流れると、何度も驚きの声が沸き起こりました。

幼稚園から高等部まで、様々な授業を体験することが出来たCSAS校での1週間。私は特に、生徒が毎日、何らかの芸術に触れる時間(演劇、合唱、楽器演奏等)を通して、自分を表現したり、協調性を学んだりする機会があることがとても良いと感じました。合唱の時間に歌った、“This is me”が、とても印象に残っており、私には今回の研修を象徴しているかのように感じられました。様々なバックグラウンドをもつCSAS校の生徒達から多くの刺激を受け、自分を自然に、上手に主張している姿を見て、上手に主張していくためには、まずは聞き上手になることが大切だと学んだことでしょう。暖かく迎えてくれたホストファミリーからは、人をもてなすことの大切さや楽しさ、感謝の気持ちを学んだのではないのでしょうか。私もこの先、自分をもてなしてもらったように、人をもてなしていきたいと強く思いました。自分の世界に人を招待し、相手を知り、自分を知ってもらおう。この繰り返しが今後のより強い絆に繋がっていくのだと思います。

最後になりますが、この機会を頂けたこと、素晴らしい派遣生と共に過ごせたことに心から感謝します。長くこの交流が続くよう、一人でも多くの生徒にこの体験をしてもらいたい。またここからが新たな始まりです。



## Circle of Friendship

(一財)遠野市教育文化振興財団 職員(引率) 福寄 順子

CSAS 校小学部での受け入れを担当してくれたエミリー先生は、遠野の派遣生たちを、とても“brave(勇敢)”だと評しました。いきなり初めて会うアメリカの生徒たちのクラスに飛び込み、ノンストップで英語でコミュニケーションを取るという状況に、私も最初こそ、“頑張れ、頑張れ”と手に汗握り応援しながら見守っていましたが、その気持ちは、直ぐに派遣生の順応力の高さへの感心に転じました。派遣生たちは、毎日の生活の中で、外国人とのコミュニケーションは、語学力だけではないということも、肌で感じたものと思います。会話する際に相手に示す態度や気遣いなど、コミュニケーションを活性・円滑化させる方法をチャタヌーガの人々から学び、自分たちも体得できたのではないのでしょうか。また一方で、アメリカに居たとしても、アメリカ人のように振舞い、同化しようとするのではなく、日本人らしさ、美点到気付き、それを大切に自己表現することが、多様な文化を尊重しあうこれからの社会で重要であることを感じたものと思います。

昨年夏に 10 年振り CSAS 校からの学生派遣がありました。その影響が、今回、CSAS 校にこれ程大きく表れているとは想像していませんでした。遠野での体験に大きく心動かされた引率教員 2 名(ジュニー先生、エミリー先生)が中心となる“遠野チーム”が結成され、これまで以上に受入れプログラムを充実させようと、小・中・高各部の担当教員が受入れプログラムをコーディネートしてくれました。例年に増して学校中に歓迎のポスターが飾られ、毎日、バラエティーに富んだ楽しい授業プログラムが用意されていました。また、遠野派遣を経験した生徒のうち4名が、今度はホストスチューデントとして遠野の生徒を受け入れてくれました。こうして、私たちの友情の輪(circle of friendship)がまた一段と広がり、パワーアップしたのを実感した今回の派遣となりました。

さて、今回、個人的な収穫は、ホームステイでもお世話になったエミリー先生と過ごした毎日です。私が既に主な観光地は訪問済みであったことから、「Emily's side of Chattanooga を紹介したい」として、“彼女の時間”を共有してくれました。友達と自転車でブリュアリー・ホッピング、美味しく多彩なベジタリアン料理、3匹の犬とテネシー川沿いのトレイルを散歩、TV を見る時間を減らそうと食後はボードゲーム、夜には、裏庭でお酒を片手に焚火を見ながら会話を楽しむ…。何て豊かなライフスタイルなのか。自分の志向を形にして毎日を送ることの尊さ。日常生活こそ、まずは大切にしなければならぬと感じました。派遣生も、それぞれに、ホストファミリーとの生活から貴重な何かを得たものと思います。

最後に、今回から再開した大都市研修について報告します。NY では朝から晩まで、全員の顔が輝き通してした。街の持つエネルギーが確かに、乗り移っていました。特に、9.11 メモリアルミュージアムと『アラジン』では、まったく別の側面から、心を揺さぶられる体験をしました。NY のそこかしこにあるトランプ大統領所有のビルを眺めながら、彼の言うところの保護主義的な great とは違うが、そしてアメリカだけが great ではないが、アメリカはやはり great だと実感しました。ダイナミックさ、個の尊重、多様性、そして人々の正義感と優しさにおいて。



# New York, New York

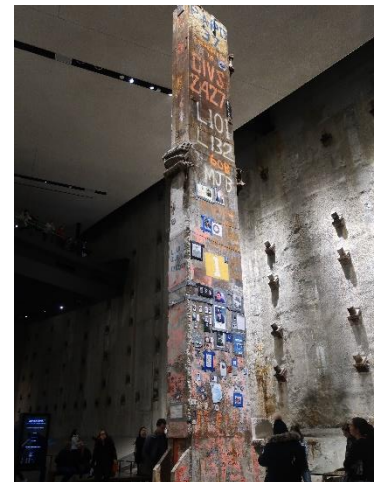
NY 研修写真レポート♪

🍏 January 15

自由の女神

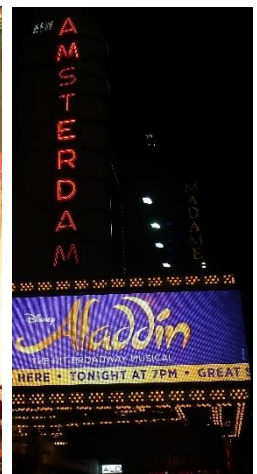


9.11 メモリアルミュージアム



ブロードウェイミュージカル  
『アラジン』

ウォールストリート







"Breakfast at Wellington"

グランドセントラル駅



セントラルパーク



市立図書館

タイムズスクエア



**主催： 遠野市姉妹都市等交流事業実行委員会**



**一般財団法人遠野市教育文化振興財団**

〒028-0524 遠野市新町1番10号

電話:62-6191 FAX:62-6195

HP:<http://tono-ecf.or.jp>

FB:<https://www.facebook.com/tono.e.c.f>

QRコードから財団のFacebookにアクセスできます。  
海外派遣交流事業を含め、様々な財団の事業について  
掲載しています。どうぞご覧ください。

